

共学

如水館バンコク高等部

タイで日本の教育を

如水館バンコク高等部は、タイ・バンコクの中心部から北東に約三十キロメートルのところに位置している。教頭の相宅政則先生が「田んぼや畑に囲まれているが車はバンバン走っている。近くにはコンビニもない」という環境だ。寮はない。生徒たちのほとんどが自宅からスクールバスで登校している。



5階建ての校舎には体育場、理科実験室、PC室、食堂なども完備している

バンコクには約四万人の日本人が住んでいて、大規模な日本人学校がある。けれども高等部はないので、子どもが中学校を卒業したあともタイでの生活が続く家庭から「中学卒業後もタイで日本の教育を継続させたい」という声が多かった。その要望にこたえて二〇〇八年に設立されたのが、如水館バンコク高等部だ。

学校設立の意義は「子どもといっしょに暮らすことで保護者が安心できること」「よりレベルの高い学びができる高校で、海外にいることを生かしてグローバルリズムを学ぶことができること」と相宅教頭。

日本人学校を卒業してこの学校に入学した四人の生徒にも話を聞いた。

三年生のKさんは、「家族でいっしょに過ごすことや海外生活の経験の大切さを考えて」、二年生のOさんは「タイにいても日本の

学校と同様に学習できるから」という理由でこの学校を選んだそうだ。

水の如く

学校の名前にもあるように、「水の如く、なくてはならない人になれ」というのが建学の精神だ。その精神を実践するために必要な要素は「知力」「自立」「共生」「礼節」であり、如水館の生活のすべてにおいて基本になっている。それに加えて「国際都市バンコク的环境を活かし、グローバル社会に対する視野と思考力、行動力を身につける」ことを、如水館バンコク高等部の教育目標としている。

それを具現化するのには日々の教育活動で、海外にいるからこそそのプレゼンテーション力や自己発信力をつけていくことを目指している。たとえば「探究」という授業ではタイと日本の違いと共通点

をフィールドワークや調べ学習で探究し発表する。

タイに住んで八年目になる二年生のIさんは「この学校に入って日本との違いを多く見つけたら、近くの国を訪れたりして、国際協力に興味を持つようになりました。日本にいないとできないような体験ばかりだったので、これからも続けたいと思います」と語っている。

また、同校では語学教育も大切にしている。一年生対象のイングリッシュキャンプでは三日間英語だけのプレゼンテーションの方法などを学ぶ。

英語だけでなくタイ語も週一時間組まれている。「タイ語は日本ではほとんど使わないし、難しい。けれども、現地のことばに触れるのは大切なことです」と相宅教頭。

生徒たちの生活

バンコクの激しい渋滞を避けるため、生徒たちの始業は七時四十五分だ。下校は三時半。そのためクラブ活動は放課後ではなく、時間割の枠のなかで週二時間行われている。フットサル・バスケット部、バドミントン部、軽音楽部、日本文化部などがあり自由に選べる。

DATA

所在地：22/53 Moo 13, Suwinthawong Rd, Sansaeb, Minburi, Bangkok 10510 Thailand

電話：02-918-2343

+66-2-918-2343 (日本国内からの場合)

URL：http://www.josuikan-bkk.com

生徒数：1年=15人 2年=12人 3年=13人

教員数：専任8人

非常勤3人(ネイティブスピーカー)

入学資格(2021年度)：

2021年3月中学校卒業見込みの者、または中学校をすでに卒業した者で、本校の建学精神に基づく人間教育および高等学校教育を履修し得ると認められる者。

行事は少人数のよさを生かし、学年の枠を超えて行われる。毎年五月に行う新入生歓迎の宿泊校外学習は全校生徒が参加する。料理をしたりアクティビティをしたりすることで、親睦を深める。特色があるのは年六回の泰日工業大学との交流会だ。そこではお互いの文化や言語を紹介し合う。Kさんはこの行事を通じて「タイの人の日本への愛を感じ、よりいっそうタイや日本を好きになることができる」と語っている。そのほか、文化祭にあたる「水華祭」やスポーツ大会もある。修

学旅行は二年生がカンボジアを訪れる。このような行事は生徒会が中心になって立案運営し、先生はサポート役に回っている。三年生のMさんはクラブ活動や行事を通して「上下関係がなくフレンドリーなので会話をしていて楽しいです」と話す。生徒たちに人気があるのは給食だ。タイ料理を中心にメニューは豊富だ。Kさんは「勉強のことを忘れて友達や先生とおしゃべりしながらいっしょに給食を食べるとはいちばんの楽しみです」と語る。

学校は利用するもの

下校時間は早いのが六時まで学校に残ってもよいことになっている。



待ちに待った給食の時間 日本人好みの味づくりに笑みがこぼれる

その場合、帰りは集まってタクシーで最寄りの駅まで行き、電車で帰る。進路希望に合わせた個別補習も可能であり、自ら課題を発見し自分で学習することもできる。KさんとOさんは「自分のレベルや進路志望に合わせて先生が対応してくださるのでとてもよい制度だ」と考えている。

相宅教頭は「残って学校を利用しなさい。学校は利用するもんだ」と生徒に言っているようだ。

下校時間が早いので、生徒たちは夜の時間も有効に使っている。調査によると、休みの日は十時間、ふだんは四、五時間勉強する生徒が多いそうだ。

「誘惑はタピオカミルクティーを立ち飲みすることくらいですから(笑)」と相宅教頭。

土曜日には「土曜講座」と銘打ち、受験や英会話、日本語補習などさまざまなニーズに合わせたユニークな講座が用意されている。このように充実した生活を送っている生徒もいる。「日本に帰っても困らないような教育をしている」と相宅教頭。広島の本校には寮があるので帰国後も如水館の教育を受けることが可能だ。



イングリッシュキャンプはアクティビティもたくさんあって楽しく学べる行事

ところで、生徒たちは将来をどのように考えているのだろうか。Kさんは教師を目指している。そして、海外生活の楽しさを知ったので、大学では留学をしたいそうだ。

Oさんは「人を笑顔にできる仕事に就きたい」、Mさんは「のんびり暮らしたい(笑)」と言う。

Iさんは「青年海外協力隊に入りたい」と思っている。先生の経験談を聞き、興味を持ったそうだがまた歴史が好きなので、歴史と国際協力を結びつけたいとも考えている。

如水館の生徒たちはタイの空気をいっぱい吸って、「水のように」型にはまらず、「なくてならない人」になるのだろうか。

(取材・文：高田和子)